



浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

vol.153

1

2016.1.1

学 報



クリスマスイルミネーション点灯式
(平成27年12月)



目 次

○大学ニュース

- ・平成27年度解剖体慰霊祭 . . . 1
- ・永年勤続者表彰 . . . 5
- ・光先端医学教育研究センター館銘板除幕式 . . . 5
- ・学生のボランティア活動 . . . 6

○学会・研究活動等

- ・第40回日本医用マスペクトル学会年会を開催致しました . . . 7
- ・第8回蛍光Navigation Surgery研究会を主催して . . . 7
- ・第3回ADP(Antigen Diversity in Asian Populations)の報告 . . . 8

○諸報

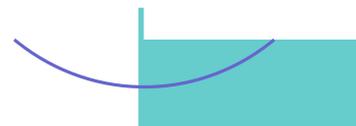
- ・研究助成金等の採択（平成27年9月～12月） . . . 8
- ・平成27年度厚生労働省科学研究費補助金一覧 . . . 8
- ・会議 . . . 9
- ・平成27年度国立大学法人浜松医科大学組織機構図 . . . 11

※各項目をクリックすると該当ページにジャンプします。



表紙の写真

小児科の子どもたちがカウントダウンに合わせて点灯ボタンを押すと、附属病院デッキテラスのクリスマスイルミネーションに鮮やかな光が灯りました（平成27年12月）



平成27年度解剖体慰霊祭

10月22日(木)午後2時から本学体育館において、解剖体慰霊祭が執り行われました。

この慰霊祭は、医学の発展のため本学における解剖（正常・病理）に献体された故人の御霊に対しご冥福をお祈りするため、ご遺族、白菊会会員及び新天会会員を招いて行われるもので、式は、黙とう、管弦楽演奏、献体者氏名奉読、追悼の辞、学長あいさつと続き、出席者全員による献花が行われ閉会となりました。

学長あいさつ

学長 中村 達

解剖体慰霊祭に当たり、浜松医科大学を代表して一言ご挨拶申し上げます。本日はお忙しい中、皆様方には、本学の解剖体慰霊祭にご参列いただきまして誠にありがとうございます。ご臨席いただきましたご遺族の皆様、並びにご来賓の各位とともに、私達浜松医科大学教職員、学生一同、ここに謹んで御霊前に追悼の意を表わし、御霊の安らからんことを、お祈り申し上げます。

本年度、慰霊のお祀りをしました合祀数は正常解剖137体、病理解剖14体、受託病理解剖7体の計158体の御霊（みたま）であります。本学の医学教育のためにご献体を賜りました「白菊会会員」、「新天会会員」の皆様にご心から敬意を表わし、また、病理解剖にご同意いただきました、ご家族の皆様にも、心から感謝申し上げます次第でございます。とくに、正常解剖においては、当大学の医学生、及び看護学生約180名に加え、近隣の施設の看護学生および、理学療法士、臨床工学技師、鍼灸マッサージ師等を目指す学生たち、500余名が見学実習に来て、人体の解剖を学ぶため真剣に取り組んでおります。これらの学生達に代わり厚く御礼申し上げます。

さて、「解剖」には、「正常解剖」と「病理解剖」二つの種類があります。「正常解剖」は医学生、看護学生が人体の構造を調べるための解剖で、医学を学ぶ学生の教育に欠かすことができません。優れた医師になるために医学生にとって最も大切なことは、人体の構造を詳しく知ることです。そこで、医学生は「解剖学実習」を行って人体の構造を学びます。「解剖学実習」は医学教育の最初に履修する、最も基礎的な、最も重要な教科であります。学生にとって「解剖学実習」は、教科書の文字や図から得る知識とは異なり、複雑な人体の構造を実際に目にし、手で触れることに

よって人体の構造を正確に学ぶとともに、「生命の尊厳」、「医師の使命感」、そして「人間とは」などを考えさせられる貴重な教育の機会でもあります。医学の世界は留まるところを知らず進歩していますが、それでも解剖学実習には他の動物やi P S細胞をもってしてもご献体いただきました人体の代替となるものはありえないことはご存知のとおりです。医学生は、生まれて初めてご遺体と直面した時、さらにまた、生まれて初めてご遺体にメスを入れた時のことは、生涯忘れません。生命の尊厳に打たれ、震える思いが致します。やがて、それが「医の倫理」、「正しい医療」にも通じて、医師として、人間としての成長につながるものと思います。私達の大学では、解剖学実習が終了し、ご遺体を火葬する際には、解剖をさせていただいた学生は、ご家族からご遺体のありし日のことをうかがいながら、火葬が終わるのを待ちます。そして、ご家族と共に収骨させていただいています。この時、学生はショックとも呼べるような感動を覚え、解剖学実習の前後では、これらの体験から明らかに学生は成長します。この感動こそが医療人に向けての成長過程で大事な教育になっていることと思います。

一方、病理解剖も極めて大切であります。「病理解剖」は、死後に病気の原因を解明するために病変を詳しく調べ、診断及び治療が適切であったか、一体からだの中に何が起こっていたのかを明らかにするための



解剖で、医学の進歩にとって欠かすことができません。病理解剖の結果は、受け持ち医や看護師たちばかりでなく、指導医達にとっても大変勉強になることが多く、思わぬことが見つかることも多いため、実際同様な病気の患者さんにフィードバックして生かしていきます。病気の治療には正確な診断が必要であります。最近では、超音波診断、レントゲンCT、核医学、MRI、そして最新鋭のPET-CTのような診断機器が急速に進歩したことにより、かなり正確な診断が可能になりました。しかし、このように診断技術が進歩した今日でも、生前の診断がととても困難な場合や、治療効果が十分上がらないことがあります。診断が極めて難しかった患者さん、非常に治りにくかった患者さんが亡くなられた際には、死後できるだけ早く解剖し、病巣部位を確認し、病変の種類、病気の原因

を確定するため、病理学者によって詳しく検討され、正確な病理診断がなされるのが、医学の進歩のために不可欠であります。このような「病理解剖」が人類の疾病に対する戦いにどれだけ貢献してきたか計り知れません。医学の進歩のために「病理解剖」の重要なことを、ご理解いただき、病理解剖にご同意いただきましたご家族の方々に心より感謝申し上げます。

わが浜松医科大学も昭和49年の開学以来、今年で開学41年目を迎えました。現在までに、本学医学部医学科を3,565名が卒業し、また、看護学科を1,164名が卒業して、静岡県を始め、全国の医療の現場で活躍しています。本学に在籍したこれらの医療関係者ばかりでなく、見学実習に来てそれぞれの道に進まれた医療人が、貴重な御献体から学ばせていただいたことは、計り知れないものがあります。



今、この慰霊の時に当たり、私どもは、ご家族ともども、故人ご在世中のいろいろな思い出を偲びつつ、大学をあげて、御霊の安らからんことをひたすらお祈りするものであります。

大学は心して目指す目的を誤ることなく、一層の精進を続けますことをここにお誓いします。ご遺族皆様の今後の御多幸をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

追慕の辞

浜松医科大学白菊会会長 布施 隆三

本日、ここに浜松医科大学の慰霊祭が行われるに当たりまして在天の諸霊に一言追慕のことばを捧げます。

そもそも医学教育の目的は私ども人間の健康を保つこと、さらにより健康であることに役立つ医師の育成にあると私は思います。

その医学教育の第一歩は解剖学実習から始まるのであります。当大学では解剖学教室をはじめ大学当局の一方ならぬご努力により、実習をすべて献体されたご遺体で行えるに至っております。

このように実習を行うことができるようになったのは、昭和30年以来医学教育のお役に立とうではないかと呼びかけている白菊会に共鳴し入会されて「無条件・無報酬」という極めて不合理ともいえる「献体」を、この大学のために志された「あなた方」のお心と、さらに「献体」を実現してくださっ

たご遺族の勇気ある決断とご協力がこの大学の教育に貢献されたところは誠に量り知れない多大なものがあると存じます。

学生が勉強する「正常解剖」は病理解剖とは異なり通常3ヶ月ないし6ヶ月がその授業に充てられ、献体後御遺骨が返還されるまでには2年ないし3年後になることもあります。

ひと口に献体といわれますが、そのかげにはこのような長期間を黙々として遺骨の返還を待たれるご遺族のあることを私どもは忘れてはならないと思えます。

それ故にこそ、当大学におかれては厳粛にして且つ心のこもったこの慰霊祭が行われることは言をまたないところと信じます。

さらにまた、大学当局は「あなた方」の気高い御遺志に報いるためにまた御遺族の心情をも推しはか

り無限の感謝をこめて教育に当たっておられる筈であります。ここにおいて学生諸君はこのような「献体の実態」を認識されて「医道に目覚めた」心温かい医師医学者となるための勉学をつづけられることを私どもは祈念して止まないものであります。

慰霊の詞

新天会を代表して、慰霊の言葉を述べさせていただきます。

医学をめざす皆さま、「解剖実習」を経験され、生涯忘れ得ぬ経験となった事でしょう。

地球誕生から46億年と言われます。地球は長い長い沈黙がありました。シアノバクテリアの登場により、太陽のエネルギーを使い光合成を可能としました。酸素の誕生です。マンガンという元素がその引き金となりました。太陽のエネルギーから、この地球に酸素をもたらす光合成は、あまりにも大きな変化でした。今日、マンガンを含む食品には、クローブやシナモンがその代表で、クリスマスケーキ「シュトーレン」に見る事ができます。他方、大きな課題は、紫外線や放射線からののがれ、生命の営みへの一歩でした。その道を拓いた元素は、セレンだと言われています。セレンを最も多く含む食品は鰹節を始め、魚介類に見る事ができます。食の全ての基本となる「だし」や、お祝い等に使われています。

シアノバクテリアの時代から二糖類の一種「トレハロース」に注目されます。脳血管疾患などの原因によ

終りにのぞみ、私はご遺族に感謝申し上げるとともに「献体」を全うされた皆さま方のご生前をしのびつつ、本日参列の浜松医科大学白菊会会員を代表してここに恭しく謹んで追慕のことばを捧げ在天の御霊のご冥福をお祈りするものであります。

新天会会長 金谷 節子

り、一度食べる事を失った嚥下障害者に対し、再び食べられるようにするための食材として、保水性の高いトレハロースが注目されています。長い長い地球誕生の歴史の延長線上に登場し、今、医学をめざそうとする皆さん、解剖実習をとおして、何を学んだでしょうか。人のからだの仕組みや、すばらしさにさぞや驚かれた事でしょう。人生最後の締めくくりとして、自らのからだを解剖実習に捧げた人々がいた事を生涯記憶してください。長い人生の中には、多くの不条理、理不尽な事に打ちのめされる事もあるでしょう。その時、あなた方のために勇気を持って解剖献体した人々がいたことを思い出してください。その勇気と希望を、皆様の生きる支えとして受け継いでください。

献体をされたご遺族の皆様、大きな悲しみの中に取り残された事でしょう。しかし献体の中に希望を見いだす事ができます。解剖実習をとおし、学生達に命のバトンリレーがされたのですから、うれしい限りです。

私たちも先人に習い、勇気と希望を支えに、天国でまた会う日を楽しみに、終わりの時まで、走り続けます。

慰霊の詞

浜松医科大学職員代表 鈴木 修

本日、ここに浜松医科大学解剖体慰霊祭が執り行われるにあたり、医学の教育・研究のために献体されました故人のご霊前に浜松医科大学の職員を代表し、謹んで慰霊の詞を捧げます。

医学は急速に進歩してきており、現在すばらしい診療・診断技術が使われています。それにもかかわらず、多くの方々が治療の難しい病に苦しんでおられることも事実であります。浜松医科大学に奉職しております私どもは、治療の難しい病の原因を解明し、さらに新しい治療法を開発すべく、優れた医学・看護学



研究者の育成に努力しています。そして、患者様の気持ちや苦しみを理解できる心温かい医師や看護師を育成することが責務であると考えています。

医学部に入学した学生にとって、2年目に体験する人体解剖実習は大変な驚きであり、一生忘れものの出来ないものとなります。本物のご遺体に自分自身でメスを入れ、長期間人体の構造を身を以て学ぶのです。その際、ご献体くださったご本人様に関して申し上げるならば、自分の死後、身を挺して「医学と医療」の発展を願い、またそれを信じて献体して下さっているのです。その御心は何と尊くまた清らかなものでありましょう。そのことを、解剖学実習担当教員は、まず学生に心をこめて伝えております。学生も人体解剖実習を通して、ご献体くださったご本人様やご遺族様の尊い御心に大いに感謝し、医学の道に邁進する決意を新たにしますのであります。また、人

体解剖実習は命の尊さを考える良い機会にもなるのであります。

病気で亡くなった方を解剖する病理解剖は、医学の発展に大きく貢献してきました。病理解剖においても、ご遺族様の医学の発展を願う尊い御心に対して、同様に感謝すると同時に敬意を表すものであります。

今日ここにご参列くださいましたご遺族様や関係者様のお気持ちは唯一つ、「献体が十二分に医学・医療の役に立って欲しい」ということでありましょう。私どもは、今日のこの思いを、日々新たにしながら、学生ともども私どもに課せられた重大な責務を果たしていくことを、ここに衷心からお誓い申し上げる次第であります。

限りなき感謝の念を御霊に捧げますとともに、ご冥福を心からお祈り申し上げ、慰霊の詞とさせていただきます。

慰霊の詞

本日、ここに浜松医科大学解剖体慰霊祭が執り行われるにあたり、私たちの解剖学実習のためにご献体くださいました皆様の御霊前に、謹んで慰霊の詞を申し上げます。

浜松医科大学では、2年生で最初の専門科目として解剖学を学びます。私たち医学生にとって、この解剖学は数ある専門科目の中でもとても特別な存在です。

今日に至るまでの医学の発展は、人々の健康を願う尊い志によって支えられてきたものです。私たちにとって解剖学実習は、医学の発展に寄与することの尊さに触れ、医療に携わる者としての自覚と責任を自身に問う貴重な機会となりました。

人の体はとても複雑で、その構造や仕組みを学べば

学生代表 伊藤 暉

学ぶほど、生きるということがいかに多くの工夫に支えられていることだろうと驚かされます。教科書や図譜を読むだけでなく、実際に御献体から学ばせていただくことで初めて気づくこと、感じることもたくさんあります。そして、解剖学実習を通して学び感じることにすべてが、これから医学を学んでいく上で大きな意義を持っています。それは単に解剖学が医学の基礎になっているというだけではありません。人の性格が一人ひとり違うように、臓器の大きさや形から血管の走行に至るまで、全く同じ人は一人としていません。また、御献体が生前どのような人生を歩んできたのか、その片鱗を垣間見ることもできました。このように解剖学実習を通して、一人ひとりの命の尊さを改めて実

感するとともに、医療従事者としての使命と覚悟がより強くはっきりとしたものになりました。

最後になりますが、御自身の体を医学の発展のために捧げてくださった皆様、並びにその御意志を汲み、献体にご理解くださった御遺族の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。そして、私たちに医学を志す者としての貴重な成長の機会を与えてくださったことに深い感謝の意を表するとともに、故人の皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



永年勤続者表彰

11月19日（木）永年勤続者表彰式が執り行われ、学長から次の方々に表彰状が授与されました。今回表彰を受けた職員は、本学に20年間勤務した職員で、9名の職員が表彰を受けました。表彰式では、中村学長から永年の勤続に対する感謝と、今後の精励を願う挨拶がありました。

【永年勤続表彰者】

戸倉 新樹（皮膚科学講座 教授）
 内田 千晴（実験実習機器センター 准教授）
 石川 仁子（検査部 主任臨床検査技師）
 馬場 聡（病理部 准教授）
 鈴木 直人（栄養部 調理師）
 長谷川喜久江（看護部 副看護師長）
 鈴木 祥子（看護部 副看護師長）
 河原 愛（看護部 看護師）
 松本 知恵子（看護部 看護師）

【列席者】

中村 達（学長）
 小出 幸夫（理事・副学長）
 鈴木 修（理事・副学長）
 前田 広（理事・事務局長）
 西山 仁（監事）
 津田 紘（監事）
 今野 弘之（副学長）
 加藤 明彦（栄養部長）
 鈴木 美恵子（看護部長）
 長谷川篤志（事務局次長 総務担当）

【式次第】

開式
 表彰状授与
 （記念品贈呈）
 学長挨拶
 被表彰者謝辞
 閉会式



光先端医学教育研究センター一館銘版除幕式



1月21日（木）光先端医学教育研究センターフォトニクス医学研究部前において、「光先端医学教育研究センター」館銘板除幕式を行いました。

平成28年1月1日に設置された光先端医学教育研究センターは、フォトニクス医学研究部、医用動物資源支援部、先進機器共用推進部、産学官連携推進部の4組織で構成されています。本学の強みである光、イメージング技術の医学応用をさらに尖鋭化し、他分野も含めた研究・実用化開発・教育（人材養成）を医学部各講座とともに一丸となって活動していきます。

学生のボランティア活動

12月10日(木)本学附属病院小児科病棟において、クリスマスイベントが行われ、学生がボランティアとして参加しました。

医学科1年 永田 真理奈

私はグレゴリー・オーダウド先生の呼びかけで、附属病院で開催されるクリスマスイベントにボランティアとして参加させていただきました。これは看護師さんやたんぽぽ学級のスタッフの方々によって毎年、小児病棟に入院中の子供たちを対象として行われているものです。ボランティアの仕事は、クリスマスカード作り、プレゼントの準備、イベントの出し物の準備でした。イベント前は毎日昼休みに集合し、準備を進めていきました。クリスマスカードは学生で力をあわせて、全て手作りでオリジナルのものを制作し、プレゼントは学生や大学及び附属病院で勤務されている教職員の方、オーダウド先生のご友人から寄付されたものを送りました。プレゼントの準備といっても集めるだけではありません。子供たちの年齢や性別にあわせたものを送れるよう、みんなで相談しながら、一つ一つ思いを込めて選んでいきました。イベントで出会えるであろう子供たちの姿を思い浮かべながらプレゼントを袋に詰めていくのはワクワクしました。また、イベントの出し物はサンタクロースの一年についての紙芝居に決まり、一枚ずつ丁寧に色を塗って、仕上げていきました。そして迎えた本番当日。プレゼントの準備に思いのほか時間がかかり、紙芝居の練習がなかなかできなかったためすごく緊張していましたが、子供たちの前に立って、キラキラした瞳を見た途端、緊張が吹き飛んで、子供たちに喜んでもらえるよう一生懸命

頑張ろうと気合いが入りました。一枚ずつボランティアのみんなでつないでいき、紙芝居を終えると子供たちの温かい拍手で包まれ、成功できてよかったとほっと胸をなでおろしました。最後に、オーダウド先生扮するサンタクロースが登場し、子供たち一人一人にプレゼントを渡していきました。子供たちの満面の笑みと感謝の言葉を見て聞く度、心が温かくなり、今回のボランティアに参加できて本当によかったと思いました。入院の中でけがや病氣と戦い、苦しかったり辛かったり、色々な思いを抱えていると思います。その中で見せてくれた笑顔に、私も幸せな気持ちになるとともに勇気をもらいました。自分たちがしたこと子供たちの心を少しでも明るくできていたら、少しでも心に残る時間になっていたと思います。後日、子供たちから、感謝の言葉が寄せ書きされたクリスマスカードが届きました。クリスマスイベントを本当に喜んでくれた様子が一人一人の言葉から伝わってきて、今回のイベントに勇気を出して参加してよかったと何度も思いました。

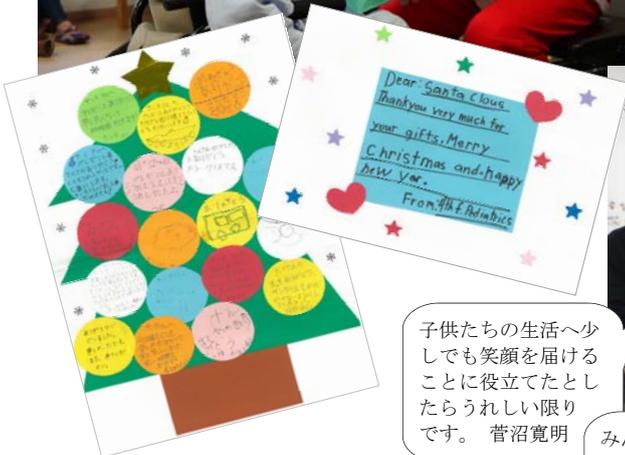


今回のボランティアの中で初めてたくさんの病院の子供たちと関わらせていただく機会を得ました。あまり長く話をするにはできませんでしたが、改めてどのように向き合っていくべきなのか考えるきっかけになり、自分が目指していきたい将来の姿が明確になってきたように思います。大学生活の中でその夢を叶えられるよう、日々努力していきたいです。

自分が目指していきたい将来の姿が明確になってきたように思います。 永田真理奈

クリスマス会にいたすべての子供たちが、来年は元気になって家でプレゼントをもらえることを祈っています。 橋本優子

将来自分がなりたい医師像を、将来働くことになる医療現場を考え想像するきっかけになりました。 詫間みなみ



小児科病棟の子供たちから届いたクリスマスカードのお礼状

子供たちの生活へ少しでも笑顔が届けることに役立てたとしたらうれしい限りです。 菅沼寛明

みんなと一緒に活動していることに対する楽しみも感じる事ができました。 石原和起

子供たちの喜ぶ姿を見ることができて、とても心が温かくなりました。 鈴木健太郎

小児科病棟で働いている医師や看護師、院内学級の先生方などの子供に対する姿勢を間近で見ることができ、将来、医療従事者として働く者として、身の引き締まる思いがしました。 石川智香子



第40回日本医用マススペクトル学会年会を開催致しました

このたび、平成27年9月17日（木）、18日（金）の2日間に亘り、第40回日本医用マススペクトル学会年会をアクトシティ浜松コンgresセンターで開催いたしました。日本医用マススペクトル学会は質量分析法の医学とその関連領域への応用を目的として昭和51年に発足し、今日まで着実な発展を遂げて参りました。本会ではおかげさまで、一般演題（ポスター）62題、参加者約300名と多数のご出席を賜りましたほか、関連企業からも多くのご支援を受け、4つのセミナーと11の展示ブースをご提供いただきました。招待講演ではImperial College LondonのJeremy K. Nicholson先生より「Systems Medicine in a Changing World: The Challenge of Measuring and Visualising Personal and Public Healthcare Data」の題



icine in a Changing World: The Challenge of Measuring and Visualising Personal and Public Healthcare Data」の題

解剖学講座（細胞生物学分野）教授 瀬藤 光利

名 で、特別講演では九州大学の中山敬一先生から「次世代プロテオミクスを用いたがん特性の解明」の題目でご講演いただきました。千葉大学の野村文夫先生による松本勇賞受賞講演では新聞社からの取材もあり、本学会への注目の高さがうかがわれました。シンポジウムでは、1) 全国自治体で事業化されたタンデムマス・スクリーニングへの対応、2) 質量イメージング解析—基礎から応用への新展開、3) トランスオミクス解析が切り拓く次世代医療におけるバイオマーカー探索、4) 危険ドラッグの質量分析研究という4つのテーマについて、4名のオーガナイザーにより幅広い分野から最新の知見として計17演題を取り上げて頂きました。医療分野における質量分析、特に先天性代謝異常解析、薬物中毒診断からメタボローム・プロテオーム解析、質量イメージングによる病態診断まで幅広い分野から最新の知見を取り上げて頂き、これらのご発表に対し大変ご活発な討論がなされました。また、年会翌日（9月19日）には日本医用マススペクトル学会主催「医用質量分析認定士」第3回講習会を開催し、70名近くのご受講者にご参加いただきました。本認定制度がさらに普及し、質量分析技術の臨床応用に携わる人材育成につながっていくことを期待いたします。

本会の開催にあたり、学内外の多くの方々にご支援いただきました。改めまして厚く御礼申し上げます。

第8回蛍光Navigation Surgery研究会を主催して

平成27年10月17日（土）にアクトシティ浜松コンgresセンターにおきまして、第8回蛍光Navigation Surgery研究会を主催いたしました。本会は蛍光イメージングを外科手術の際に応用することにより、外科手術の更なる発展を目指して始まりました。リンパ管やリンパ節の蛍光、癌の蛍光、血管や胆道の蛍光をテーマに外科の様々な領域の専門家が全国から約100名ほどが集い、熱い議論が交わされました。本会は浜松ホトニクス株式会社との共催で開かれています。この会が発足した発端は、同社が開発したインドシアニングリーン蛍光を可視化してビデオイメージとしてリアルタイムで観察できる装置の誕生から始まりました。これまで肝機能検査などに用いられてきたインドシアニンググリーンは、体内でタンパク質と結合するとある一定の波長の近赤外光により励起され、蛍光を発します。安価かつ無害な試薬のため、様々な領域での応用が広がり、現在はこの領域で

外科学第二講座 准教授 海野 直樹

は本邦が世界をリードしています。ある意味浜松発の学術領域とも言え、浜松医科大学は浜松ホトニクス株式会社との連携によりこの分野の益々の発展に貢献できると考えております。その成果を基に新しい知財を獲得すること、医師主導の臨床治験の実施により新技術を検証し、全国に、そしてひいては世界へと普及させていくことが我々に課せられた任務と考えております。皆様方の益々の御支援をいただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

第3回ADP (Antigen Diversity in Asian Populations) の報告

輸血・細胞治療部 部長/病院教授 竹下 明裕
臨床検査技師 山田 千亜希

平成27年11月14日、Hotel Melia Bali Nusa Dua (インドネシア) にて、3rd meeting of the ADP (Antigen Diversity in Asian Populations) を本学主催で開催しました。

免疫応答は人種により異なることが報告されています。赤血球抗原に対する不規則抗体も人種間で異なることが予想されますが、これまで国際間の比較はされてきませんでした。多くの民族が生活するアジア地域では、不規則抗体の産生に多様性があると考えられます。この多様性を明らかにするため、2008年国際輸血学会 (ISBT)

を機会に、同種免疫に関するアジア国際共同研究が設立されました。本研究

は浜松医科大学に事務局があり、本学の国際共同研究推進事業のサポートを得ています。これまで日本、韓国、中国、シンガポール、マレーシア、タイの65施設より、1,310,000例超が登録され、各不規則抗体の発現頻度とともに、妊娠や過去に行われた輸血との関係を解析してきました。今回の会議では、日本、韓国、インドネシア、台湾、タイ、マレーシアより計20名の専門家が参加し、本研究の結果と今後の方向性について意見交換を行いました。その結果、各国間で不規則抗体の発現率や種類には明らかに差があり、赤血球抗原や免疫応答と民族との関係を考える上で興味深い結果が得られています。この成果は2016年4月に開催される日本輸血細胞治療学会総会 (京都国際会議場) のシンポジウムとして取り上げられ、各国から演者を招き報告されることになりました。今後は、不規則抗体に起因する輸血副作用の頻度、重症度、転帰を各国で明らかにしていく予定です。この国際共同研究により、国際間の輸血医療と研究に関する協力体制への道が開かれることが期待されます。



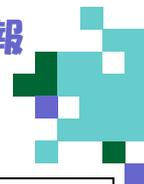
研究助成金等の採択 (平成27年9月～12月)

諸報

| 所属 | 職名 | 研究者 | 研究助成機関 | 助成金額 (単位:千円) |
|-----------------------|---------------|--------|--------------------------|-----------------|
| 健康社会医学講座 | 助教 | 柴田 陽介 | 公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム | 1,100 |
| 感染症学講座 (ウイルス学・寄生虫学分野) | 教授 | 鈴木 哲朗 | 公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム | 1,350 |
| | | | 公益財団法人 三井生命厚生財団 | 1,000 |
| 内科学第一講座 | ティーチング・アシスタント | 石垣 さやか | 一般財団法人 地域医学研究基金 | 50 |
| 精神科神経科 | 臨床心理士 | 望月 洋介 | 公益財団法人 メンタルヘルス岡本記念財団 | 400 |
| 眼科学講座 | 助教 | 細野 克博 | 公益財団法人 浜松科学技術研究振興会 | 500 |
| 健康社会医学講座 | 助教 | 岡田 栄作 | 公益財団法人 三菱財団 | 800 |
| 内科学第二講座 | 助教 | 古橋 一樹 | グラクソ・スミスクライン (株) | 2,000 |
| 内科学第二講座 | 特任助教 | 鈴木 勇三 | グラクソ・スミスクライン (株) | 2,000 |
| 小児科 | 助教 | 坂口 公祥 | 公益信託 日本白血病研究基金 | 500 |
| 子どものこころの発達研究センター | 特任助教 | 浅野 良輔 | 公益財団法人 マツダ財団 | 800 |
| 解剖学講座 (神経機能学分野) | 助教 | 山岸 覚 | 公益財団法人 先進医薬研究振興財団 | 1,000 |
| 地域看護学講座 | 助教 | 山岸 暁美 | 公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ | 1,190 |

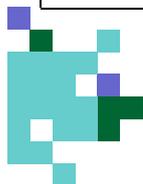
平成27年度厚生労働省科学研究費等補助金一覧

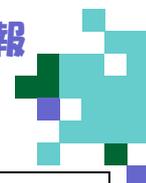
| 所属 | 職名 | 研究者 | 代表者 分担者 | 研究事業名 | 研究課題名 | 交付決定額 (単位:千円) |
|----------|----|-------|------------|--------------|--|------------------|
| 健康社会医学講座 | 教授 | 尾島 俊之 | 代表者 | 厚生労働科学特別研究事業 | 厚生労働科学研究における研究成果のアウトカム評価の指標及び手法の開発に関する研究 | 9,360 |



会 議

| | |
|--|--|
| 4月 1日 第5回組換えDNA実験安全委員会* 第2回物流管理委員会 | 9月 25日 第26回診療情報管理委員会 |
| 2日 第7回教務委員会 第6回臨床研究倫理審査委員会 | 30日 第80回臨床研修管理委員会 第5回経営企画室会議 |
| 3日 第188回病院運営企画室会議 | 10月 1日 第190回病院運営企画室会議 |
| 4土 第4回学生委員会 | 2日 第2回助産学専攻科委員会 |
| 8日 第178回知財活用推進会議 | 6日 第6回組換えDNA実験安全委員会* |
| 9土 第1回臓器提供委員会 第3回輸血療法委員会 第8回教務委員会* | 7日 第7回臨床研究倫理審査委員会 第9回教務委員会 |
| 第5回国際交流委員会 第3回図書館運営委員会 | 8日 化学療法部連絡協議会 第7回大学院博士課程部会 |
| 10日 化学療法部連絡協議会 第6回大学院博士課程部会 | 9日 第121回教育研究評議会 第5回学生委員会 |
| 11金 第120回教育研究評議会 | 10日 第6回入学試験委員会 第5回大学院修士課程部会 第5回大学院修士課程部会 |
| 12土 第3回ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会 | 16日 第747回教授会 第509回大学院博士課程教授会 第137回大学院修士課程教授会 |
| 16日 第126回研究推進企画室会議 第134回研究推進委員会 第5回入学試験委員会 第6回感染対策委員会 第6回医療安全管理委員会 第4回大学院修士課程部会 | 17日 第6回情報・広報企画室会議 |
| 17土 第3回医の倫理委員会 第189回病院運営企画室会議 第107回教育企画室会議 第5回情報・広報企画室会議 | 21日 第127回研究推進企画室会議 第135回研究推進委員会 第8回動物実験委員会* 第7回感染対策委員会 第7回医療安全管理委員会 第6回国際交流委員会* |
| 18土 第746回教授会 第508回大学院博士課程教授会 第136回大学院修士課程教授会 | 22日 第108回教育企画室会議 第4回開学40周年記念誌編集専門委員会 |
| 19日 第7回動物実験委員会* 第3回薬剤管理委員会 | 23日 第116回診療科長・中央診療施設等部長会議 |
| 22日 第114回総務企画室会議 第55回外来診療部会議 | 24日 第6回(臨時)学生委員会 |
| 24日 第17回病床管理委員会 | 27日 第179回知財活用推進会議 |
| 25日 第3回調査労務企画室会議 第115回診療科長・中央診療施設等部長会議 | 28日 第6回経営企画室会議 |
| | 29日 第4回調査労務企画室会議 第191回病院運営企画室会議 |
| | 30日 第115回総務企画室会議 |
| | 11月 4月 第8回臨床研究倫理審査委員会 |
| | 6日 第7回学生委員会 |

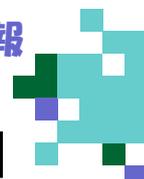




| | |
|--|---|
| 11月 10日 第180回知財活用推進会議 第7回経営企画室会議* 第56回外来診療部会議 | 12月 2日 第11回教務委員会 |
| 11日 第4回輸血療法委員会 第10回教務委員会 第4回図書館運営委員会 | 3日 第193回病院運営企画室会議 第9回大学院博士課程部会 |
| 12日 第4回医の倫理委員会 第8回大学院博士課程部会 第6回大学院修士課程部会* | 4日 第123回教育研究評議会 第15回児童虐待・養育困難対応委員会 第8回学生委員会 |
| 13日 第122回教育研究評議会 第138回大学院修士課程教授会* 第138回大学院修士課程教授会* | 8日 第8回入学試験委員会 第181回知財活用推進会議 |
| 17日 第7回入学試験委員会 第4回ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会 第3回物流管理委員会 | 9日 第7回組換えDNA実験安全委員会* 第1回看護委員会 第7回大学院修士課程部会 第8回国際交流委員会 |
| 18日 第128回研究推進企画室会議 第136回研究推進委員会 第8回感染対策委員会 第8回医療安全管理委員会 第7回国際交流委員会 | 11日 第749回教授会 第511回大学院博士課程教授会 第139回大学院修士課程教授会 |
| 19日 第192回病院運営企画室会議 化学療法部連絡協議会 第109回教育企画室会議 | 12日 保健管理センター運営委員会 |
| 20日 第748回教授会 第9回動物実験委員会* 第510回大学院博士課程教授会 | 15日 第57回外来診療部会議 16日 第129回研究推進企画室会議 第137回研究推進委員会 第9回感染対策委員会 第9回医療安全管理委員会 |
| 25日 第8回経営企画室会議 第7回情報・広報企画室会議 | 17日 第194回病院運営企画室会議 化学療法部連絡協議会 第2回保険診療委員会 第110回教育企画室会議 第81回臨床研修管理委員会 |
| 26日 第18回病床管理委員会 | 18日 第8回情報・広報企画室会議 |
| 27日 第5回調査労務企画室会議 第117回診療科長・中央診療施設等部長会議 第27回診療情報管理委員会 第4回薬剤管理委員会 | 19日 第195回病院運営企画室会議* |
| 28日 第116回総務企画室会議 | 22日 第117回総務企画室会議 第10回動物実験委員会* 第10回大学院博士課程部会* |
| 12月 2日 第9回臨床研究倫理審査委員会 | 24日 第6回調査労務企画室会議 第9回経営企画室会議 |
| | 25日 第107回総務企画室会議 |
| | 26日 第118回診療科長・中央診療施設等部長会議 |

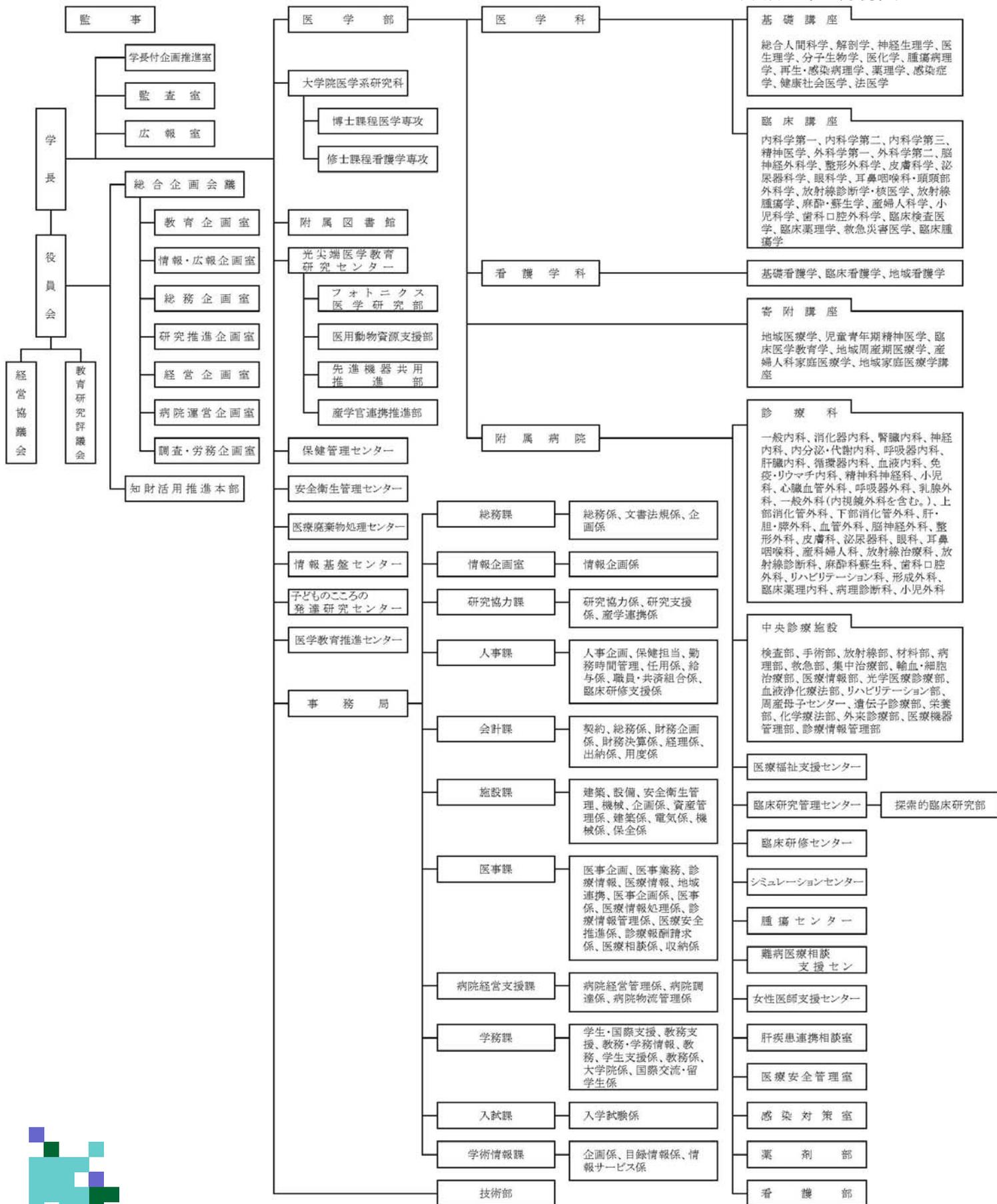
* 持ち回りにて開催したもの





平成27年度国立大学法人浜松医科大学組織機構図

(平成28年1月現在)



発行
浜松医科大学広報室

浜松市東区半田山1-20-1

電話：053-435-2114

Email：koho@hama-med.ac.jp

